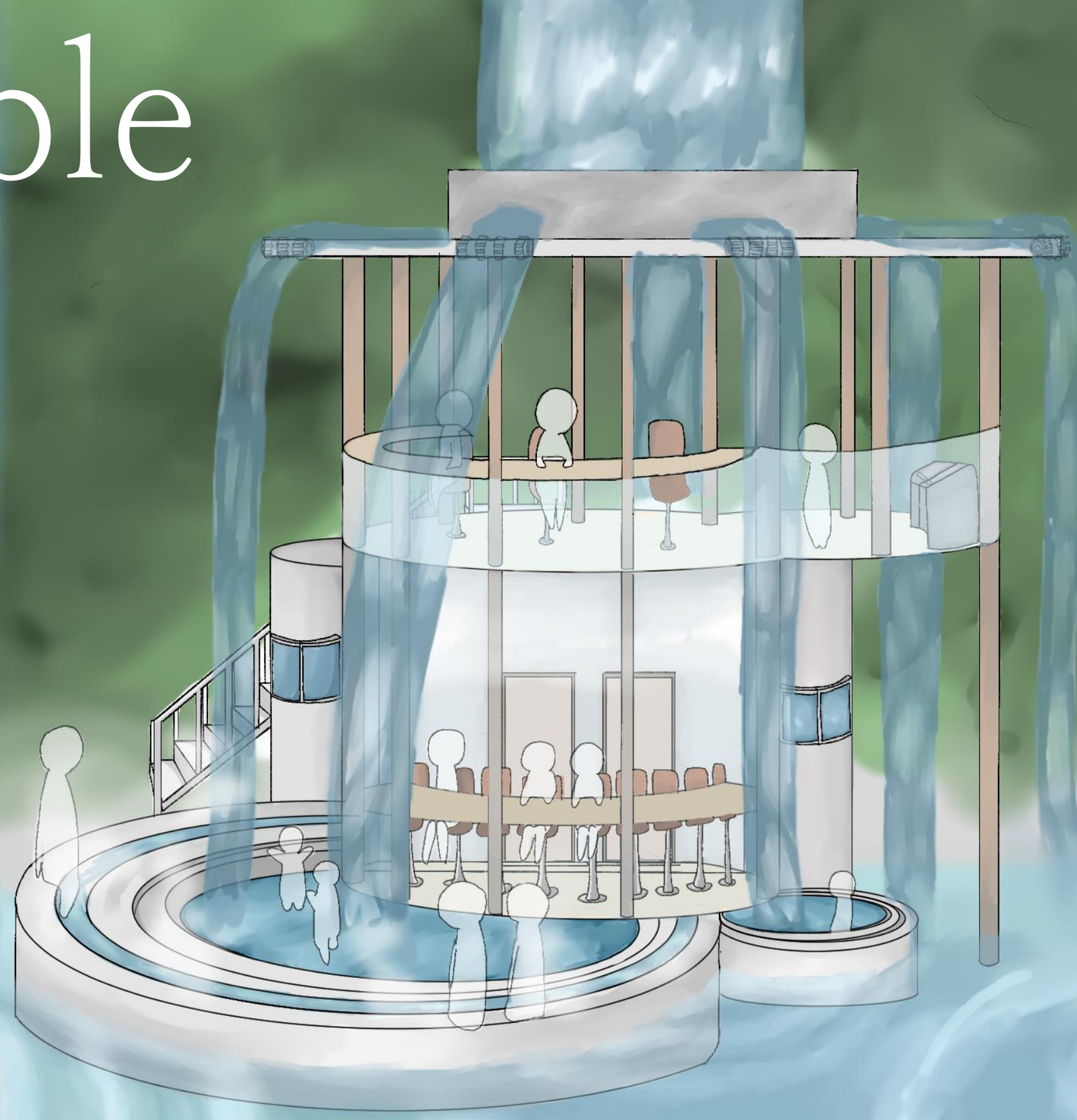


Our Bubble



Concept

子供の頃、お風呂やプールでブクブクの気泡をつくり、遊んでいた。水たまりがあればパシャパシャと足踏み。水のある場所は楽しい場所だった。しかし近年、水害や水の事故など、水がある場所は危険と隣合わせの場になった。水の大切さや水の怖さを学ぶとともに、水がある場所は楽しい場所だと思えるような、水を楽しむ水の交流場を提案する。

水を活かす

・水の壁

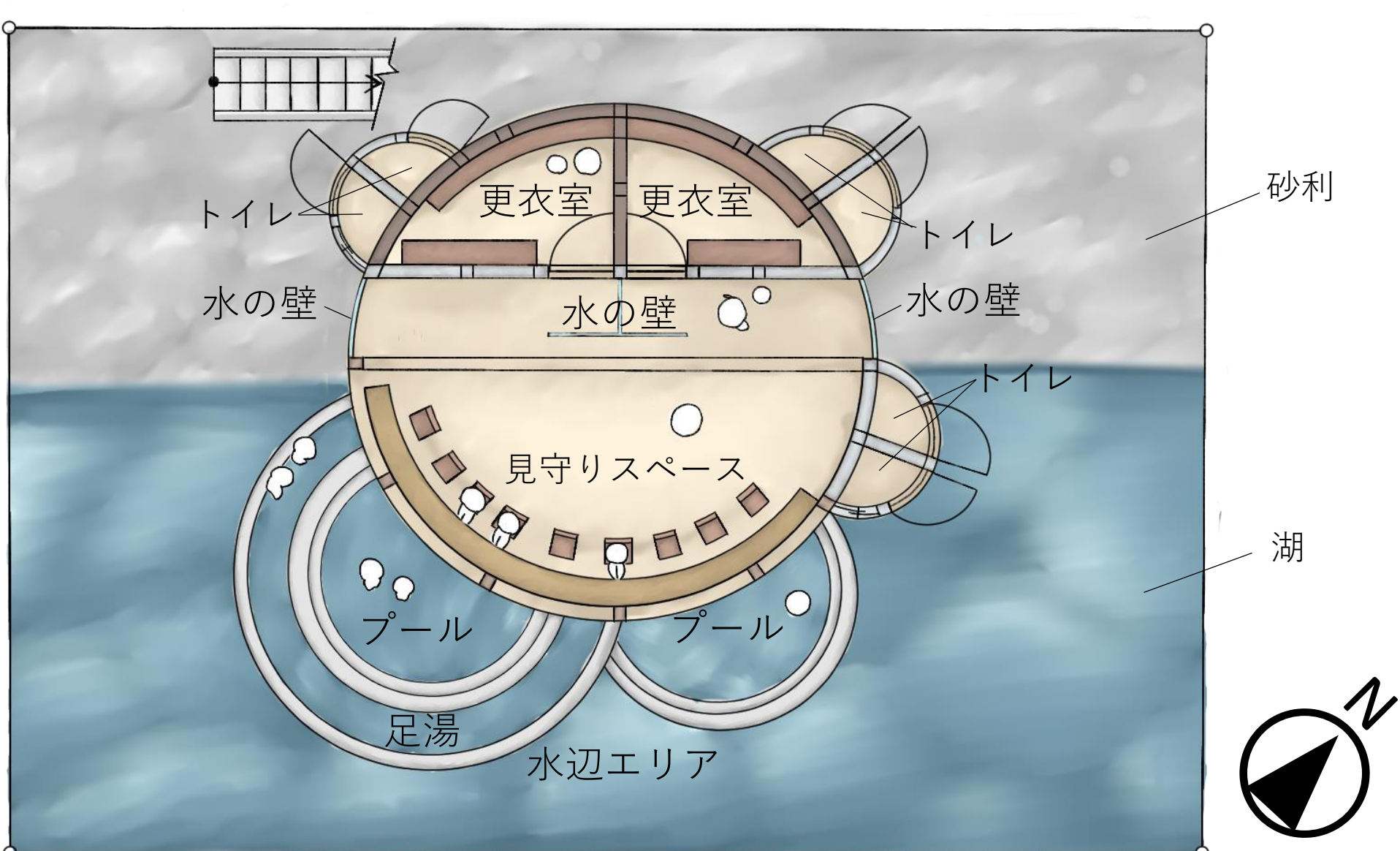
目線を遮る役割だけでなく、滝から流れた水を建物に流し、壁にすることで太陽の光が反射し、床に揺らぎを落とす。水の流れる音、水のおい、水に触れ、全身で水を感じることができる。適時、水の量を調節して部屋を区切る。水の壁は1階に3つあり、廊下の端、更衣室の扉付近に流れている。

・水の力

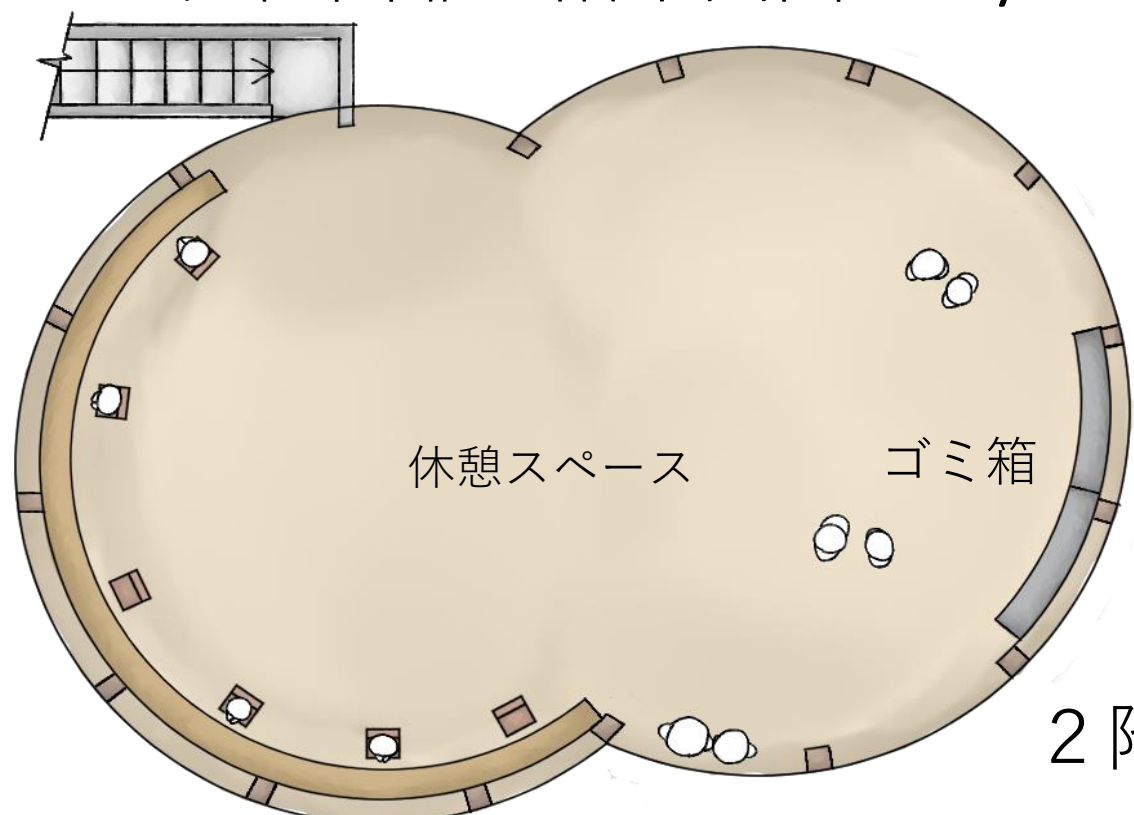
夏は、滝の天然のミストを浴びて涼むことができる。ここでは滝に囲まれているため全体的に涼しく感じられる。冬の寒い日には、滝や湖が凍って美しい景色が見れる。凍ったことで子供や若者はスケートを楽しみに訪れる。これを目的に若者が集まり、SNSで話題となる。そして、人が集まる。2階の外側に水力発電装置を設け、子供達は発電の仕組みも学べる。

・水の循環

Our Bubbleは水が循環している。滝が流れ、Our Bubbleに水の壁、プール、足湯ができる。利用した後は浄化装置で浄化し、湖に流される。そして湖に水が溜まり、蒸発して再び雨水から滝へと合流する。



配置図兼1階平面図 1/80



2階平面図

2階は足湯やプールで過ごしたあと、自然を感じながらゆっくり休むスペース。立って一時的に景色を眺めたり、椅子に座って飲食をしたりすることができる。壁をテーブルの高さまでにする事で外から入ってくる滝のミストや湿り気を浴びることができ、夏は特に涼しく感じられる。

Diagram



水から泡が発生する → 泡が集まる → 泡が重なる
水の泡を人と考え、多数の人が集まり、交流を重ねる。

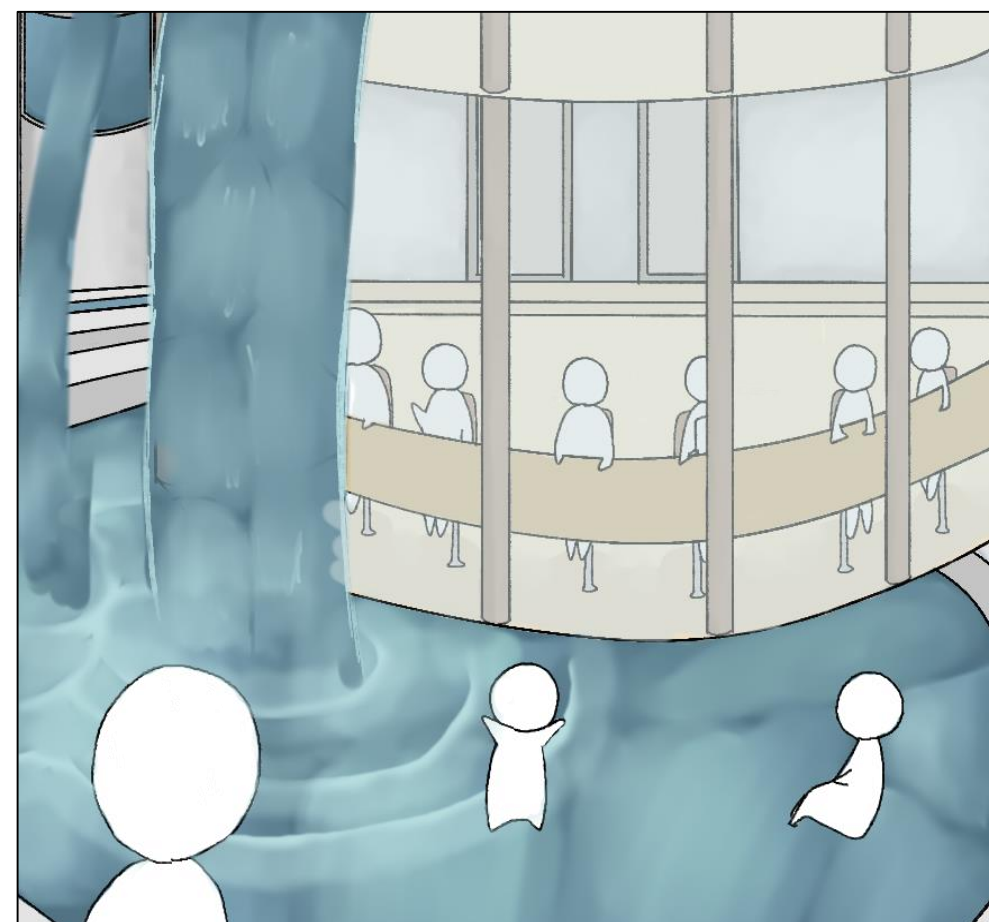
生まれる泡(交流)

Our Bubbleは、足湯と水辺エリア、そして3本の滝がある憩いの施設。

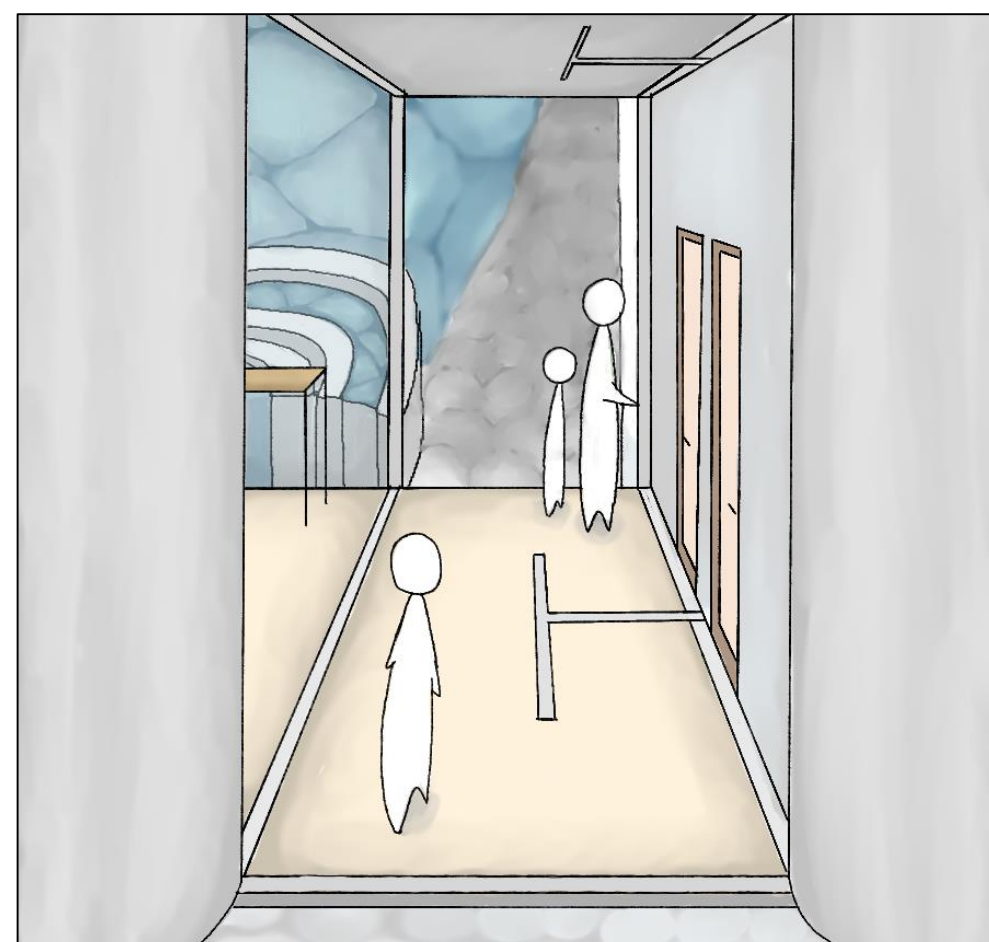
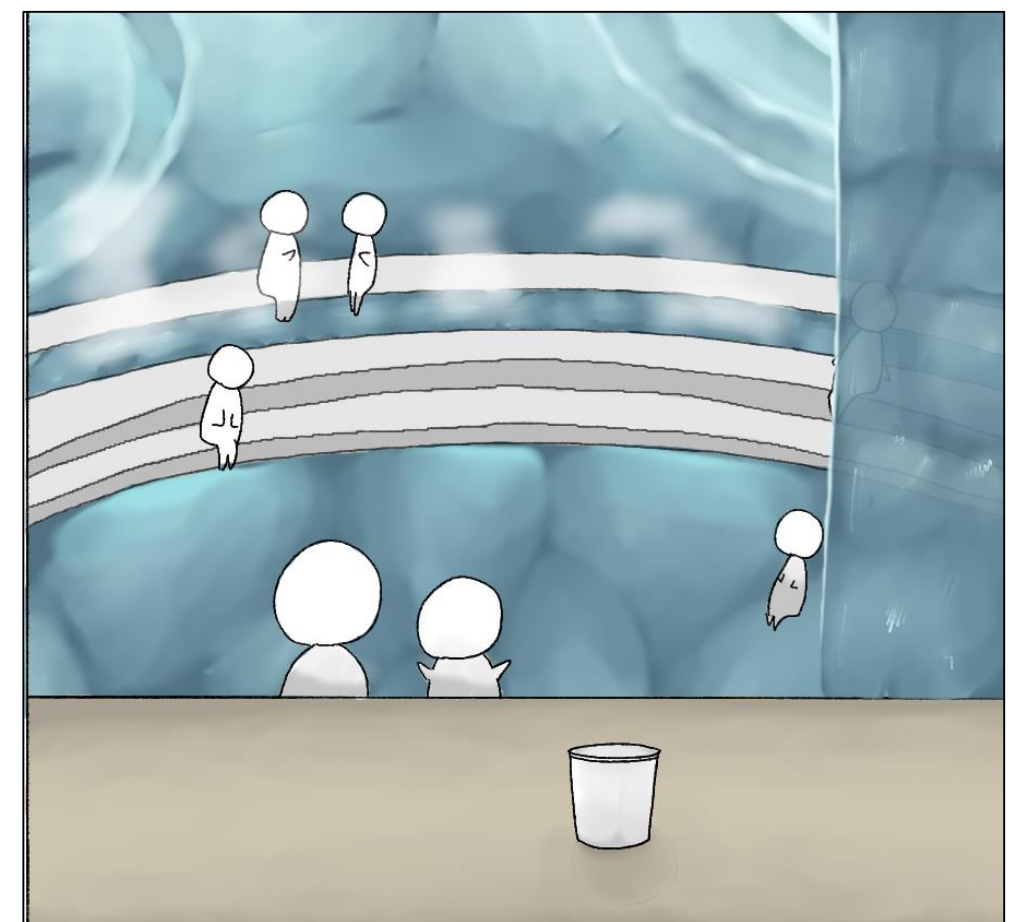
- ・水辺エリアのプールは子供達、子育て親子の交流の場。
- ・足湯は高齢者や親世代が子供達を見守る交流の場。
- ・そこで水の大切さ、怖さ、楽しさを教え、学ぶ場。
- ・3本の滝は、季節や天候によって、その表情を変え、その様子を若者や大人達が楽しむ、発信の場。

発信から、そこにいる人達だけでなく、日本中、世界中とつながる交流の場となる。

近年、高齢者と子供が関わる機会は少ない。ただ一緒にいるだけの交流ではなく、高齢者が経験を子供に語ったり、教えたりすることで互いに普段とは異なる刺激が味わえる。プールや足湯を設けることで高齢者と子供の交流以外にも子供同士、それを見守る大人同士、足湯で癒されに来た高齢者同士で新たな交流を生み出す。



中にいる親が外で遊んでいる子を雑談しながら見守れるため、事前に事故が防ぎやすく、親が安心して過ごせる。



水の壁ができることによって、室内にいる人は外の音が遮音され、外にいる人は室内の話し声が遮音される。更衣室の扉を開けるときに中が少し見える状態だったが、水の壁を流すことでどの方向からも更衣室の中が見えないようにできる。